敬語の働き

聞き手や話題の中の人物に敬意を表す表現を**敬語**という。敬語は、他者とのコミュニケーションをとるうえで、大切な表現である。

敬語には、相手に対する敬意を表すほかに、改まった気持ちを表したり、相手との距離(きょり)をとったりする働きもある。状況(じょうきょう)や相手との関係に応じて、適切な敬語を使うことが大切である。

敬語の種類

敬語には、丁寧(ていねい)語・尊敬語・謙譲(けんじょう)語などの種類がある。

●**丁寧語**・美化語

丁寧な表現を使って、話し手が聞き手に敬意を表す言葉を丁寧語という。

〈主な表現〉「……**です**」「……**ます**」「……**ございます**」

(例) 私は中学生だ。 → 私は中学生です。
　　朝食を食べる。 → 朝食を食べます。

また、物事を上品に述べる言葉を美化語という。美化語は、名詞に「**お**(ご)」を付けるものが多い。

(例) お米・お金

●**尊敬語**

動作・行為(こうい)をする人(主体)を高めて言う言葉を尊敬語という。

〈主な表現〉

・「**お**(**ご**)……**になる**」
(例) 話す → お話しになる

・「**お**(**ご**)+名詞」 ※謙譲語の場合もある
(例) (先生からの)お電話　ご挨拶(あいさつ)

・助動詞「……**れる**(**られる**)」
(例) 話す → 話される

・尊敬の意味をもつ特別な動詞

行く・来る・いる	**いらっしゃる・おいでになる**
見る	**ご覧になる**
言う・話す	**おっしゃる**
食べる・飲む	**召(め)し上がる**
くれる	**くださる**
する	**なさる**

確認テスト

(1) 次の①〜④の――線部が、丁寧語なら**ア**、尊敬語なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

①先生が昔のことを話される。〔　　〕
②右が入口でございます。〔　　〕
③昨日、田中先生に会いました。〔　　〕
④今日はいい天気ですね。〔　　〕

(2) 次の①〜④の――線部が、美化語なら**ア**、尊敬語なら**イ**で、それぞれ答えなさい。

①お花をかざる。〔　　〕
②お言葉をいただく。〔　　〕
③お水をください。〔　　〕
④お菓子(かし)を買う。〔　　〕

(3) 次の中から、――線部が尊敬語ではないものを選びなさい。

ア　先生がお帰りになる。
イ　ここをお使いになる。
ウ　全てご着席になる。
エ　私からご連絡(れんらく)する。

〔　　〕

(4) 次の――線部の言葉をひらがな五文字の尊敬語に直しなさい。

先生が言うとおりでした。

□□□□□

(5) 次の――線部の言葉をひらがな四文字の尊敬語に直しなさい。

あの方はいつも助けてくれる。

□□□□

(6) 次の①〜④の言葉の尊敬語として適当なものを、それぞれ選びなさい。

①来る〔　　〕
②食べる〔　　〕
③する〔　　〕
④見る〔　　〕

ア　ご覧になる
イ　召し上がる
ウ　いらっしゃる
エ　なさる